

2020年度・長野陸上競技協会 事業報告

1. 選手強化（競技の研究や選手指導など）

選手強化育成事業は8月以降宿泊を伴わない形態で限定的に実施した。派遣事業は、これまで従来のジュニアオリンピック陸上競技大会が、本年はターゲットナンバーを設定して出場人数を制限し「全国中学生陸上競技大会2020」という名称で開催され、ロード以外はこの大会のみとなった。入賞者は次のとおり。全国中学：優勝1、入賞6名。全国高校：入賞2名、全国高校駅伝男子5位、女子20位。

2. 普及育成（講習会の開催および指導者の養成など）

7月以降、各専門部の練習会や記録会について、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を施し、規模を縮小し事業計画により実施しているが、小学生を対象とした事業は実施できなかった。長野国体開催に向けて、小学生からの選手発掘、中高連携等育成を計画的に実施する必要がある。ジュニア（中学生）の普及強化については、選手育成事業として定期的に行っている。

3. 競技会の開催

長野県市町村対抗駅伝と長野県縦断駅伝は中止とし、7月以降の競技会の開催に当たっては、「日本陸連競技会再開のガイダンス」に従い、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分に行い、無観客を原則として開催した。

4. 審判員の養成およびその資格を認定

S級昇格5名、A級昇格9名、B級新規取得66名（一般35名・高校・高専3年生31名）。2018年度から実施している高校3年生を対象とした講習会を今年度も別枠で実施（地区新人大会時）し、取得を勧めている。長年B級審判員で留まっている方に、A級昇格を強く働きかけたい。また、検定員と自転車計測員については赤沼広志先生（大町岳陽高校教員）を継続推薦し、自転車計測員には新たに池田圭吾先生（飯山高校教員）を推薦した。

5. 機関紙および刊行物の発行

2020年度要覧を令和2年4月11日に発行したが、購入部数が少なく、定款や各種規程内容の理解、各種手続きや審判ウェアの購入等が徹底されない状況である。長野陸協会報は、169号(8/7)、170号(2021/1/1)、171号(2021/3/31)発行した。また、長野陸協web上で、各種事業・大会等、日本陸連、日本スポーツ協会、長野県スポーツ協会、長野陸協協賛企業各社他の情報を随時提供している。(株)杏花印刷が2月6日に発売した「長野の陸上競技2020総集編」（中学・高校生版）を監修した。

6. その他（陸上競技協会の目的を達成するために必要な事業）

- (1) 2028年に開催が予定される2巡目の長野国民スポーツ大会に向けてプロジェクトを進めている。特に新松本競技場の基本設計について県・設計者と協議している。
- (2) 長野陸協各種規程等の見直しを行っている。
- (3) 一般財団法人向けガバナンスコードへの対応を検討し、すべての要件を満たすよう取り組んでいる。
- (4) 新型コロナウイルス感染対策室を設置した。